

学校支援の充実

持続可能な地域との連携を目指したP T A活動

知多市立つつじが丘小学校P T A

1 はじめに

知多市は、知多半島の北西部に位置し、人口約 82,000 人の都市である。つつじが丘小学校は、つつじが丘団地の造成に伴い、昭和48年に創立した創立52年目の学校である。校区の総面積は、741,559㎡と非常に狭く、校区の外れからでも約10分で登校できる。学校規模は、昭和57年度の児童数1,281名、32学級をピークに年々減少し、今年度は、児童数264名、15学級（通常学級11、特別支援学級4）、P T A会員数 235 名である。

外国にルーツをもつ児童が多く、今年度はおよそ2割の児童が、ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語を母語とした外国にルーツをもつ児童である。そのため、市の日本語初期指導教室が校舎内に併設されているとともに、市の外国人児童生徒指導員（通訳）1名が、学校に常駐している。

子どもたちは、外国にルーツをもつ児童と普段から接することがあたりまえであるため、偏見や差別なく、寛容で誰にでも優しい子どもたちが多い。



【つつじが丘小学校校舎】



【正門前の校訓碑】

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

子どもたちを見守る地域のコミュニティの方は、子どもたちを地域の宝として、大切にしてくださっている。地域やP T Aの方の多くは、子どもたちのためにできることをしてあげたいという思いが強い。一方、近年、全国的に持続可能なP T Aの組織改革が叫ばれている。本校においても、役員や委員のなり手不足やP T A活動に対して一部に消極的な様子も見られるため、持続可能な活動への改革が急務となっている。

そこで、新潟市立紫竹山小学校の持続可能なP T A組織改革の実践を参考に「できる人が、できるときに、できることを」という従来の考え方から一歩進めて「やりたい人が、やりたいときに、やりたいことを」という姿勢への転換を図り、義務感でなく、楽しみながら関わることを重視していきたいと考え、研究を推進していくことにした。

(2) P T Aの組織と他組織との関わり

本校のP T A組織は、役員 5 名と委員 12 名、教職員の役員等 7 名の計 24 名で構成されている。総務部、研修広報部、環境整備部、保健安全部の 4 部会を組織し、活動を行っている。

令和 9 年度から、八幡中学校区（八幡中・八幡小・つつじが丘小）の 3 校同時にコミュニティスクールが導入される計画で、現在準備を進めている。「つむごう！ちたっ子の未来！地域と学校による人づくり」をスローガンに、地域と学校の連携と協働を目指す。P T Aは、連携や協働の中心を担うことが期待されている。

地域の自治活動の中心を担う「つつじが丘コミュニティ」とも、あいさつ運動を共催するなど、さまざまな形で連携と協働を図っている。

また、歴代 P T A会長で組織する「おやじの会」や子どもたちのために楽しい企画を行いたい「保護者有志の会」、現役の保護者や O B ・ O G で組織する読み聞かせの会「おはなし広場」など、P T Aの枠を飛び越えた組織が多数あり、子どもたちのためになる活動を行っている。

3 実践活動の概要

(1) あいさつ運動

P T A総務部を中心に、つつじが丘コミュニティの環境安全部と共催して、毎月第 2 水曜日の朝、学校の正門と西門であいさつ運動を展開している。P T Aとともに地域の大人が子どもたちを見守り、育んでいくこの取組は、10 年以上続いており、あいさつを通じて子どもたちとコミュニケーションを図って交流を深めている。昨年度から、知多市の公認キャラクター「梅子ちゃん」も参加して、大いに盛り上げてくれるので、子どもたちだけでなく、あいさつ運動を行う大人たちも大変喜んでいる。



【あいさつ運動の様子】



【梅子ちゃんと一緒にハイチーズ！】

(2) 親子交通安全教室

P T A保健安全部では、新 1 年生が入学してすぐに「親子交通安全教室」を実施している。市の交通指導員やつつじが丘コミュニティの長寿会で組織する「子供見守り隊」あわせて総勢 20 名の協力をいただいて、親子での集団歩行訓練を行っている。P T A保健安全部は、P T Aの朝の見守り当番の集約を行い、日常から子どもたちの登校を見守る活動を

担っている。また、地域の「子供見守り隊」は、毎日、子どもたちの登校時と下校時に、活動を行ってくださっており、学校と地域との連携や協働の推進力となっている。



【親子交通安全教室の様子】



【右・左・右・安全です！】

(3) P T A除草作業

運動会前に、子どもたちのために運動場の環境を整えたいと考え、P T A環境整備部が中心となって企画し、令和6年度からP T A除草作業を行っている。今年度は、総勢55名の方に協力をいただいて環境整備を行うことができた。P T Aの方だけでなく、地域コミュニティやおやじの会のメンバーなど、学校や子どもたちのために一肌脱いでやろうと考えてくださる方が大勢いて大変心強い。



【P T A除草作業の様子】

(4) 研修広報部の改革

P T A研修広報部では、例年、P T A新聞を年に2回発行する取組を行ってきた。新聞を発行するにあたっては、近年はどこの単Pにおいても、I C T推進のためのペーパーレス化や印刷費の高騰などの問題を抱えているとともに、研修広報部の担当になった方の負担感が大きく、敬遠されがちであった。そこで、本年度の役員会の中で「P T A新聞を廃止し、研修に力を入れたい」との意見が出され、会長の決断で改革が行われた。新聞の廃止は研修広報部員の負担感を大きく軽減し、ここ数年実施していなかった研修への意欲が向上した。子ども同士のネットトラブルが問題となっていたこともあり、1月の学校公開日に合わせて、保護者向けのスマホ・ネット安全教室を開催することになった。まさに「やりたい人が、やりたいときに、やりたいことを」という姿勢の転換が図れた改革である。

(5) その他の活動

本P T Aにおいては、上記以外にも学校保健委員会への参画やリサイクルバザーの開催等の活動を行っている。また、P T Aとしての活動で

はないものの、歴代PTA会長や現役の保護者等が中心となり、行っている独自の活動がある。以下①～③に紹介する。

① サバイバルナイト

歴代PTA会長で組織するおやじの会は、5・6年生の希望者を集め、災害時等を意識した不自由な状況を生き抜く体験活動を毎年行っている。今年度は、5月の土日に体育館で段ボールハウスを自分たちで製作して宿泊する活動を行い、39名の児童が参加した。子どもたちに生きる力を育むねらいをもって行うだけでなく、スタッフの大人たち自身も楽しんで子どもたちと関わっている。



【サバイバルナイト・火起こしの様子】

② お楽しみ会

現役の保護者の有志数名で、クイズやダンスなど子どもたちが楽しめる企画をして、毎年1月の学校公開日にお楽しみ会を行っている。この活動も、子どもたちだけでなく、スタッフの大人たち自身が楽しんで活動している。

③ 読み聞かせ

以前は、PTAの活動で行っていた読み聞かせ活動について、自身の子どもが卒業しても、読み聞かせを継続して行いたいとの要望から、PTAとは切り離して、「おはなし広場」という独自のボランティア団体を作って活動している。現役やOB、OGの保護者の方々が、やはり楽しんで活動を行っている。



【読み聞かせの様子】

このように、PTAとは一線を画した活動で、子どもたちのために、連携し協働してくださる方々が大勢いて、学校を支えてくださっている。

4 おわりに

PTA活動がやらされる活動であるうちは、持続可能な活動とはならない。持続可能な活動であるためには、「子どもたちのために」という目的を共有しつつ、関わる大人自身が楽しんで行う活動、自分自身もやりたくて行う活動でなければならない。本PTAの全ての活動やPTAの枠を飛び越えた学校支援の活動が、「やりたい人が、やりたいときに、やりたいことを」を実行できる活動となるよう、地域との連携を目指していきたい。